

令和4年度 第23回教育研究審議会議事概要

日 時 令和5年3月22日(水) 午後4時～午後8時

場 所 本部棟3階 大会議室

出席者 藤田英典学長、加藤敦子副学長(兼)語学教育センター長、田中昌弥副学長(兼)キャリア支援センター長、田中正樹事務局長、小林重雄理事、春日由香学長補佐、佐藤明浩学長補佐(兼)図書館長、加藤めぐみ学長補佐(兼)保健センター長、竹島達也研究科委員長、日向良和情報センター長(兼)共通教育センター長、新井仁入学センター長、廣田健教職支援センター長、北垣憲仁地域交流研究センター長、茂木秀昭国際交流センター長、野中潤国文学科長、三浦幸子英文学科長、佐藤裕比較文化学科長、原和久国際教育学科長、鳥原正敏学校教育学科長、高橋洋地域社会学科長、横瀬晴紀総務課長、小澤初美経営企画課長、久保田昌宏学生課長

1 開 会 藤田学長より挨拶

2 議 事

(1) 専任教員の昇任(投開票)について(国文学科)

○投票の結果、信任多数により承認

〈投票結果〉○22 ×0 白0 計 22名

(2) 専任教員の昇任(投開票)について(国際教育学科)

○投票の結果、信任多数により承認

〈投票結果〉○19 ×1 白2 計 22名

(3) 専任教員の昇任(投開票)について(学校教育学科)

○投票の結果、信任多数により承認

〈投票結果〉○21 ×0 白0 計 21名 (1名退席)

(4) 専任教員の昇任(投開票)について(地域社会学科)

○投票の結果、信任多数により承認

〈投票結果〉○22 ×0 白0 計 22名

(5) 専任教員の昇任(投開票)について(地域社会学科)

○投票の結果、信任多数により承認

〈投票結果〉○14 ×1 白7 計 22名

(6) 専任教員の採用(投開票)について(語学教育センター・英語教育)

○投票の結果、信任多数により承認

〈投票結果〉○22 ×0 白0 計 22名

(7) 特任教員(Bタイプ)の採用(投開票)について(語学教育センター・日本語教育)

○投票の結果、信任多数により承認

〈投票結果〉○22 ×0 白0 計 22名

(8) 特任教員(Bタイプ)の任期更新について(教職支援センター)

○委員から資料8に基づき説明。

→指摘事項を修正した上で提案どおり承認。

(9) 名誉教授候補者の推薦（学校教育学科）

○委員から資料 9 に基づき説明。→提案どおり承認。

(10) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案（学校教育学科）

○委員から資料 10 に基づき説明。→提案どおり承認。

(11) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案（地域社会学科）

○委員から資料 11 に基づき説明。→提案どおり承認。

(12) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案（語学教育センター 4 件）

○委員から資料 12-1 から資料 12-4 に基づき説明。→提案どおり承認。

(13) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案（共通教育センター）

○委員から資料 13 に基づき説明。→提案どおり承認

(14) 客員教授等称号付与について（学校教育学科 1 件、共通教育センター 5 件）

○委員から資料 14-1、日向良和情報センター長(兼)共通教育センター長から
資料 14-2 から資料 14-6 に基づき説明。→提案どおり承認。

(15) 外部アセスメント試験の実施について

○委員 A から 3 報告（1）「大学事務局の機構改革に伴う公立大学法人都留文科大学組織及び運営に関する基本規程の一部改正（案）について」について IR 室の設置について説明。

○学長から資料 15 に基づき説明。

○委員 B から補足説明。

（委員 C）

学生が得意かどうかということであるが、学生に聞いたところプログが役に立ったという声が多かった。

（委員 D）

アンケート結果ではプログの方が学生にとって評価が良い。

（委員 E）

在学中に就職活動をしているのは日本と韓国程度。就職に特化するのであればプログ、着地点をどこに置くのかによる。アンケートは脇に置いて本学として何を目指すのかが重要。

（委員 F）

プログラ開発目標はキャリア支援のためであり、30 代の部下のいる成功している人たちにどれだけ近づいたかが基準となっている。その後、学習支援の可視化など出てきたため、この概念もプログに付け加えてきた経過がある。それ期待して GPS-A は後発なため学習成果の可視化をするためにということもある。学生の就職対策に役立つことがわかるのはプログにあるし、多少はやるが全面的に押し出しているのが GPS-A となる。IR ということであれば、GPS-A の方が相対的には目的にはかなっている。

（委員 G）

議論する中で、両テストの違いがだんだんと明確になってきた。学長の IR の観点からいくと GPS-A はコンサルタントが手厚く、プログはない。あとをフォローしてくれる方がよいのでは。

（委員 D）

自己点検評価実行委員会でも話があったが、基準が明確でないため混乱が生じているのではないか。今、議論する中で、目的として IR をするためだったんだと理解した。学長の方針に従う。

(学長)

大学が設置基準に示されていることをできているのか、プログは社会人基礎力をキャリア支援という形で始まっているため、きめ細やかに測定できるため学生はよかったと感じたと考える。基本的には幅広い豊かな教養と専門の学芸を修めて、かつ大学での学びでのアクティブラーニングを含めた学びを豊かにしていく、そのためにどういう改善をしていくのかを見直さなければならない。GPS-Aの方が大学教育として、そして、すべての大学が向かっている学びの充実のためになるのが判断する基準になると考える。

→外部アセスメントテストはGPS-Aとする。

(16) ゼミの指導について

○委員から事後回収資料に基づき説明。

→FD 委員会で担当したことへの疑義や発端からの対応について議論。議論の結果、提案の内容について承認。

4 そ の 他

○なし

5 閉 会

以上